

# 着物「右」を先に体に合わせて

「ぷらざ」反響 「左前」は亡くなった人に

8月12日付「ぷらざ」からの抜粋

……電車に乗っていると、……若者の浴衣が左前になっていることに気付いた。……「君、浴衣の合わせが逆だよ」と、若者に声をかけて電車を降りた。

12日付「ぷらざ」欄に掲載する。

された「浴衣の合わせが逆だよ」で、読者から、着物の左右の襟の正しい合わせ方について問い合わせが多く寄せられた。夏祭りや秋祭りで浴衣を着付けることが増える。改めて確認しておきたい。

埼玉県川越市でレンタル着物店を営む着物アドバイザー

の大島寛子さんは「着物は右襟を先に体に合わせてから、左襟をかぶせます。これを『右前』と呼びます」と説明する。左襟を先に合わせる「左前」は、亡くなった人に行う着付け方なので縁起が悪いとされ



正しい「右前」の合わせ。  
正面から見ると「Y」の形  
になる（大島さん提供）

投稿は、浴衣を「左前」に着ている若者に気付いて、女性が指摘する内容。これに対し、読者から電話やメールで、「左前が正しい着方ではないか」「左前とは左側が上なのか、右側が上なのかよく分からない」という意見や質問が寄せられた。

右前の着付けは左襟が外側になるため、「左前」だと間違ってしまう。右前、左前の『前』というのは『先に』の意味。注意してください」と大島さん。着付けでは、①懐に入れた財布を右手で出し入れできる合わせが正しい②自分から見て右側を先に合わせるから「右前」——などと覚えておくといいという。

大島さんは「着る機会も減っているのに、いざという時に分からなくなるのは仕方がない。分からない場合は、あやふやなまま着付けるのではなく、ネットや本で調べてください」と助言する。